

租税教育実践事例（中学校）

登米市立石越中学校
教諭 箱石雄悟

本年度，中学校社会科で租税教育を進めていくにあたり，歴史・地理・公民的分野の年間指導計画上，租税教育に適する題材を見直し，意識的に税に関する内容を盛り込んで授業実践を行った。下表は，今年度実践を行った題材をまとめたものである。

【租税教育実践を行った題材】

分野	題材名	租税教育に関わる学習内容	指導上の留意点
歴史	奈良時代の人々の暮らし	租庸調など，律令制度のもとで農民に課せられた税について調べ，奈良時代の人々の生活を知る。	古代の租税制度は負担が過重であることを，当時の国家政策としての寺院建立等とも関連させて指導する。
	武士の成長	武士が農民から集めた年貢を荘園領主に納める代わりに土地の支配権を保護されたことを理解する。	土地制度と支配権の関わりを，年貢を通して考えさせる。
	兵農分離と朝鮮侵略	ものさしとますの統一が公平な税負担をめざしたものであることなど，太閤検地の税制改革としての側面に気付く。	耕地面積を測量する様子や検地帳を資料として用いて，関心をもたせる。
	さまざまな身分と暮らし	江戸幕府による農民支配の手立てとして，年貢の徴収や土地売買の禁止，五人組制度などがあったことを理解する。	触書を資料として用い，確実に年貢を納めさせることが幕府にとって重要であったことに気付かせる。
	近代革命の時代	イギリスの2つの革命，アメリカ独立戦争，フランス革命が，いずれも課税問題に端を発したものであることを知り，不公正な税のあり方が国民の不満を大いに高めることに気付く。	アメリカ独立戦争前夜の「代表無くして課税なし」に，植民地の人々のどのような思いが込められているかを考えさせる。 ※アヘン戦争後に清国で起こった「太平天国の乱」も，後に学習する
	開国と不平等条約	日本が関税自主権を喪失した通商条約の学習の際に，「関税」の概要を理解する。	税制を自国で定めることが，主権を守るために重要であることに気付かせる。
	明治維新の三大改革	近代的な租税制度の出発点として地租改正を扱い，その後の富国強兵政策の財政的な基盤として重要であったことを理解する。	年貢から金納に変更したことにより，計画的な財政につながったことを理解させたい。

	立憲制国家の成立	帝国議会の選挙権に納税額による制限が設けられていたことを知る。	直接国税15円以上の価値を、資料をもとに現在の貨幣価値と比較させる。
地理	進むヨーロッパ統合	EUの政策として行っている域内の関税撤廃に関して、関税の概念を簡単に説明する。	自由貿易と保護貿易のねらいをそれぞれ理解させる。
	日本の人口と過疎・過密問題	人口ピラミッドを作成し、少子化と高齢化が進んでいることに気付く。	日本を含む先進国では、少子化と人口減少が今後加速することを資料によって示す。
	自然災害と防災への取組	日本に見られる災害と、その対策を調べる。	災害対策としての施設や被災者救済の財源として税金が使われていることにふれる。
公民	「公共の福祉」と国民の義務	日本国憲法が、さまざまな権利を保障しているとともに納税の義務などの三大義務を課していることを理解する。	国家を形成している重要な柱として、国民の納税があることを強調する。
	私たちの生活と地方自治	身近な政治である地方の政治も、国政と同様に所得の再分配の側面があることを理解する。	「市政に期待すること」の資料から、政策のほとんどが支出を伴うものであり、それが納税によって支えられていることに気付かせる。
	地方財政の仕組みと課題	地方財政の状況を調べるとともに、地方分権や財政健全化を進めるためにはどうしたらよいか、自分の考えをもつ。	地方分権の意義をつかませ、地方財源を増やすためになされている試みを紹介する。
	私たちの生活と財政	租税の大まかな仕組みや特徴を理解し、税負担者として歳入や歳出の状況、問題点に関心をもつ。	提供された資料や教材を活用して、租税制度への関心を高め、納税者としての意識をもたせたい。
	政府の役割と財政の課題	社会資本整備と公共サービスの充実のために、安定した租税制度が大切であることを理解する。	公債についての学習を通して、厳しい財政状況から、税金の適切な使い方について考えさせたい。
	社会保障の仕組み	社会保障の基本的な考え方と少子高齢社会のもとでの社会保障制度のあり方を考える。	国民福祉の充実のために、社会保障関係費が歳出の中で大きな比率を占めていることを示す。
	少子高齢化と財政	少子高齢化が財政にどのような影響を及ぼすか、社会保障と財政の在り方はどうあるべきかを考える。	北欧型の高福祉高負担社会と比較させる。